

広報・教育部門

見えない「下水道」を表現する ーマンホールサミットに新たな付加価値ー

岡崎市上下水道局

受賞事例の概要

岡崎市は、令和5年度に下水道100周年を迎え、第11回マンホールサミットの開催地に選ばれました。今回のサミットでは、職員だけでなく、地元住民、学校関係者、下水道業界の関連企業の人たちと一緒に企画を考えたことで、新たな視点による企画の創出や、これまでリーチできなかった層への情報発信を実現することができました。その結果、2日間で13,000人が来場し、多くの一般市民に下水道の意義や存在感を広く周知するとともに、下水道業界で働く人の誇りの醸成につながる活動となりました。



（×地元住民） Bistro 下水道

市職員での実現が難しかった『Bistro 下水道』は、地元の住民（飲食店経営者）に協力してもらい実現ができました。下水汚泥を使った「じゅんかん育ち野菜」を“消費”までつなげることができました。



（×アーティスト） 描こう！びせいぶつランド

下水道管をイメージしたワークシートや道路をキャンバスに、下水道の中を想像してもらいながらお絵描きをしてもらいました。特に子供たちから人気が高く、楽しみながら下水道に触れることができました。



（×高校生）
第1回おかざき下水道クイズ大会
あらかじめ下水道の仕組みを説明した高校生に、クイズの作成から当日の司会まで協力してもらいました。運営に協力した高校生も参加した子どもたちも、クイズ大会を通して、楽しく下水道のことを学ぶことができました。

PRポイント！

- ①企画を一緒に考えた人たちに**下水道への理解を深めてもらえた。**
- ②多くの協力者と一緒に取り組んだ結果、**新しい視点での企画が生まれた。**
- ③道路管理者と地元住民の協力により、目的外使用の難しい道路上でアート空間にできたことで、**新しい公共空間活用の姿が出現した。**
比較的安価に実施ができるイベントもあり、ほかの自治体でも実施可能。このように**下水道啓発の輪をさらに広げていきたい。**

取組の効果！

- ① 13,000人の来場者に、普段の生活で下水道を気にするきっかけ作りができた。
- ②参加した市民からは、「こどもがマンホールサミットがきっかけで下水道に興味を持った」との声をいただいた。
- ③この取り組みについて、協会誌への寄稿や、研究発表など様々な媒体を通して、紹介ができた。

Key Person



上下水道局経営管理課
技師 村田 綾花

実施後の反響が大きかった「描こう！びせいぶつランド」では、企画立案時は実施事例がないため、イメージの共有がしづらく、企画の説明に苦労しました。多くの人たちと連携しながらの準備となりましたが、下水道を表現するという同じ認識を持ち続けることで、まとまりのあるイベントとなり大成功させることができました。この受賞をきっかけに、様々な下水道の啓発方法を多くの人たちに伝えることができ、下水道の啓発の輪が広がっていくことを期待したいです。